



# 楽々亭通信

第 24 号  
令和4年8月1日号

発行：NPO法人没イチの会・京都

## 7月の楽々亭を 開催いたしました



本願寺派布教使

安堂芳雅

■阿弥陀さまの世界、お浄土は近い？それとも遠い？

皆さんは、阿弥陀さまの世界、「お浄土」はどこにあるか、考えたことがありますか。

『阿弥陀経』というお経には、「ここより十万億の仏さまの国を超えたところにある」と説かれています。しかし、『観無量寿経』というお経には、「阿弥陀さまは、ここからほど遠くないところにおられる」と説かれています。

お浄土は、私から遠い世界でしょうか、それともすぐ近くにある世界なのでしょうか？

■ラジオ番組に、「私の捨てられないもの」というテーマで、このような投稿がありました。

「私の捨てられないもの」母は亡くなって七年、父が亡くなって一年半が過ぎ、ようやく私は実家の整理をしようと、重い腰をあげました。

やりだしてみると、性格なのか、息子だからか、そこまで両親の持ち物に興味や愛着はなく、写真など一部を除いて、意外とスムーズに断捨離ができました。

そんな中、母の部屋の洋服ダンスの上に、ポツンと置いてある一つの箱を見つけた。箱を開けてみ

ると中には、私の小学校一年生から高校三年生までの通信簿と、中高で所属していた野球部のユニフォームが入っていたのです。

通信簿なんて、妻や子供たちに自慢できるような成績ではなく、そして今より十五キロも痩せていた時のユニフォームなど、現在着られるはずもなく、すぐに、「捨てよう！」と決めたのですが、箱の中に、一通の便箋を見つきました。

その便箋には母の字で、「**コウさん、よく頑張りました。私の宝物です。**」と、書かれていたのです。

勉強もできず、野球もレギュラーではなく、本当に「デキの悪い息子」だったのに。

忘れたころの母の自分への愛情というものは、また、グツとくるもので

すね。

そんなことを云われた日には、さすがの私も捨てるに捨てられず、私の部屋の押し入れで、現在、ハバをきかせることになりました。

**姿なき、親の愛情を感じています。**

・・・五十七歳の男性から「私の捨てられないもの」という投稿でした。

このお方は、わずか二十字足らずの文字を通して、小学校一年生の時から高校を卒業するまでの間、毎学期、自分が持つて帰った通信簿を嬉しそうに見ているお母さんに、出会われました。中学、高校と毎日、泥まみれのユニフォームを洗濯し、丁寧にたたんでくれるお母さんに、出会われました。

そして、自分を「宝物」として生きてくれている、お母さんに出会われたのです。

きっと、このお方は、これからの人生をお母さんの愛情にくるまれて生きてゆかれることと思いません。

七年前に亡くなられたお母さんです。が、親心が届いたとき、このお方にとってお母さんは遠い存在ではなくまりました。

人と人の距離は、それぞれが思い合う時に、「時間を超え、空間を超える」んだなあ…と、しみじみ思いました。

また、反対に、たとえ毎日、食卓で顔を合わせていても、毎日言葉を交わしていたとしても、心が通じ合わない、触れ合うほど近くにいても、想いを受け取らない人同士ならば、その距離は遠く空しい関係なのかもしれません。

『観無量寿経』では、韋提希(いだいけ)という女性がお釈迦さまの前で、

「お浄土に生まれ阿弥陀さまに会いたい」と願います。

「どうか私に出あってくれ」と願いつけて下さっていた阿弥陀さまの心と、韋提希の心が重なった瞬間を、お釈迦さまは見抜かれました。

そして微笑まれ、「韋提希よ、阿弥陀さまはここから遠くにおられるのではないだよ。」と説かれます。

■阿弥陀さまは決して遠くにおられる仏さまではありません。

私が気づくずっと前から、「必ずお浄土に生まれさせ、さとりのお仏とする私がいる。」と、「南無阿弥陀仏」の六字となつて、呼び続けて下さっている仏さまです。

ですから、阿弥陀さまの世界、「お浄土」も、私を離れてある世界ではありません。

もちろん、先だってお浄土に参られた方々も、その中に一緒にいます。

阿弥陀さまのおはたらきの

中、仏さまとなられた大切な方と、「時間と空間」を超え、出会う世界が、「お浄土」、いま、ここに私を包んでいる世界です。

### 楽々亭に参加してみてもいい

#### その4

#### 宗教について

昨今宗教について世間が騒がしいですね、いわゆる安倍元総理の銃撃事件に端を発した統一教会事件です。昔オーム真理教もそうですが、宗教団体、宗教法人と言われて居ますのであれが宗教かと思われる方も多いですね。弁護士に言わせるとあれはオカルト教団と呼んでいますね。それが宗教団体で、それがオカルト団体なのかわかりません。オカルト団体も自分のところは宗教団体だと言って居ますし、信じている人にとってはそこが自分も先祖も救われるところだと思っておられるのでしようね。

献金問題で襲撃が起こったわけですが、仏教を少し勉強して

いる私にとっても献金は布施と言つて自分の強欲を吐き出す良い行いとされて居ますが、どこまで布施、寄付、献金、すれば良いのか制限がありませんので一概に献金がいけない行為とは言えません。年齢によって10代は幾ら、20代は幾らとか決まっていれば分かりやすいのですが。私の経験である宗教団体は会費が月一人500円と決まって居ました。それ以上は要求されません、それなら分かりやすいですね。沢山献金すればあなたの先祖が救われるなどと言うようですが地獄、極楽も金次第ということですかね、そんなのは宗教とは言えません。

では、どんなのが宗教と申すのでしょうか？私にもその定義は分かりませんが、生きて居ること自体が宗教の中に居る、いわゆる空気のようなものとは私は思っています。その空気には教えというものがあって、それによって、また悟った人によって、キリスト教になったり、イスラム教になったり、仏教になったりするのでしようね。私は仏教を少し勉強して居ます

が、わからないことばかりです。

仏教はインドから中国そして日本に上陸しました。元々はインドに生まれたお釈迦様が悟りを開かれてその教えがお経としてニッポンに来て居るわけですが、その数7000巻と言われて居ます。皆んな長い文章で一卷を読み解くに一生かかると言われています。お経は生きて居る我々にお釈迦様が説いておられるもので、死んだ人に語りかけて居るわけではありません。お坊さんが仏壇に向かつてお経を唱えますがあれは間違いで本来はそこにいる人に向かつて唱えるものです。(続きは次号で)

籠谷 弘

### 楽々亭第 8月の予定

8月23日(火)

西京区役所洛西支所会議室

午前10時~12時

7月に開催した場所です。

表玄関口から入って下さい。

### 楽々亭通信

発行元：NPO法人 没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町一丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●楽々亭通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。